

田原凧保存会

代表者

松井 克雄

所在地

愛知県田原市

設立年月日

1949年

URL

<http://takoosu.exblog.jp/i2/>

【設立趣旨】

田原凧は、江戸時代より続く伝統の凧であり、男子の生まれた祝に凧を贈り、端午の節供に揚げる「初凧」と、大空で勇敢に糸を切り合う「けんか凧」が名物です。

田原凧保存会は、これら初凧・けんか凧を継承し、より一層の普及を図るといった目的のもとで結成されました。

田原地域のみにとどまらず、全国各地で開催される他団体のイベントにも参加をする等、積極的に田原凧の普及を目指しています。

【沿革】

戦前は保存会等はなく、各地域の住民の有志が自由に初凧を揚げたり、凧合戦をしていました。ところが、戦時中も戦後も物資不足等で凧を揚げるのが非常に難しい時代がありました。そこで、凧あげを愛する者が初代会長のもとで1949年（昭和24年）に当保存会を結成し、初凧を揚げたり、けんか凧合戦をできるようにしました。

現在の保存会の中心的な活動となっている「田原凧まつり」が保存会の主催により開催されるようになったのは、1975年（昭和50年）からです。それまで、田原凧は関心のある地域の有志の間での活動でした。しかし、1975年以降はこれが地域の祭りとして定着し、子供に初凧を送るという風習を根付かせることができました。また、積極的に他団体のイベントに参加することで、他地域での田原凧の認知度が向上し、1993年（平成5年）には「けんか凧合戦」と「初凧」が「田原町無形民俗文化財」に指定されることとなりました。

現在では後継者育成事業にも注力し、保存会活動を精力的に継続しています。

【活動目的】

江戸時代より続く伝統の「初凧」や「けんか凧」を後世に継承し、田原地域内外へ広く普及させていくことを目的としています。同時に田原凧の伝統を維持、後世に確実に伝承していくことも重要な目的であり、そのために田原凧の歴史や製作方法をまとめた書籍を独自に出版して、田原凧の記録保存にも取り組んでいます。

その他、凧まつりや凧作り教室凧等を通して青少年の健全育成に励んだり、高齢者の生き甲斐づくりに資するとともに、観光振興の普及も目指して活動しています。



初凧お披露目会（田原凧保存会提供）

【活動内容】

●田原凧まつり

保存会で最も大きな活動として、毎年5月の第4土曜日・日曜日に開催されています。例年祭りの初日に初凧揚げを行い、翌日はけんか凧合戦が行われます。初凧は子供が生まれた母方の在所等からの注文を受け、保存会に所属する凧師・凧絵師が一枚ずつ製作しています。

2009年（平成21年）には保存会発足60周年記念の大会として、初凧100枚を飛翔させました。また、けんか凧合戦は34チームが熱い戦いを繰り広げました。



けんか凧づくり教室（田原凧保存会提供）

●凧づくり教室

田原凧を伝承・普及させるための活動として、地元の小中学生向けに凧づくり教室を開催しています。地元の市民館等を活用し、地域の住民に対し、凧作り教室を年間10回程度開催することで、地元住民への普及を図っています。これは、田原凧の後継者育成としての役割も担っており、保存会の重要な活動のひとつになっています。

●田原地域外での活動

全国の他団体が開催するイベントに参加することにより、他の地域での田原凧の認知度を向上させることに努めています。全国各地で行われる凧揚げ大会への参加のみならず、台湾・中国・韓国・米国など、海外での凧交流大会へも参加するなど、積極的に田原凧を広めています。

その他の活動としては、保存会の活動拠点を市所有の会館に確保し、田原凧の展示等を行っています。

【活動上の課題と今後の展望】

今後は、凧師・凧絵師といった田原凧の技術を伝承する後継者の育成を図っていくことが必要であると考えています。地域の子供への凧文化の伝承により、長期的な後継者の育成を図ることに加え、けんか凧チームに所属する若手を凧づくり教室へ参加させて経験を積ませること等により、今後は人材育成に一層注力していく予定です。

また、HP・ブログの更新、定期刊行物の発行といった情報発信を組織的に行うことも重要であると考えています。田原凧に愛着を持ち、パソコン技術に長けた人材をメンバーとして加えるべく、人材の発掘を行っていくことを予定しています。